

日本語の構造を分析する

—データから見える言語の地平—

三原健一

1. はじめに

「理論と記述のバランス」

寺村秀夫 (1928-1990)

■ Chomsky, Noam (1965) *Aspects of the Theory of Syntax*. MIT Press.

[安井稔 (訳) 『文法理論の諸相』 研究社]

■ Fillmore, J. Charles (1968) The Case for Case. In E. Bach and R. T. Harms (eds.) *Universals in Linguistic Theory*. Holt, Rinehart and Winston.

2. ガ・ノ可変

■ 『日本語構文大全 II: 提示機能から見る文法』

後置詞としてのガ (とヲ): [例] 多重主格構文

(1) a. 佐藤君 {が / * ϕ }, 手品が上手だ。

→ ①総記のガは意味を有する, ②総記のガは脱落し難い

b. [s[PP[NP 佐藤君][P が]], [s 手品が上手だ]]

↑

提示句 = 後続文命題に先立って提示される句

ガ・ノ可変 (*Ga-No Conversion*) → 連体修飾節

(2) a. [村上春樹 {が / の} 書いた] エッセイ (はファンが多い)

b. [彼の態度 {が / の} 不自然な] こと (に気付いた)

名詞認可仮説 (Miyagawa 1993)

(3) ... [NPノ主語[sガ主語 ...]N] → cf. [NP僕の[N家]]

■ Miyagawa, Shigeru (1993) Case-checking and Minimal Link Condition. *MIT Working Papers in Linguistics* 19.

ポーズの問題

(4) a. *子供たちのみんなで勢いよく駆け上った階段 (福井 (編) 2000: 80)

b. 子供達の, みんなで勢いよく駆け上がった階段 (の向こうに海が広がっていた)

■ Harada, Shin-Ichi (1971) *Ga-No Conversion and Idiolectal Variations in Japanese*.

■福井直樹（編）（2000）『シンタクスと意味：原田信一言語学論文選集』大修館書店。

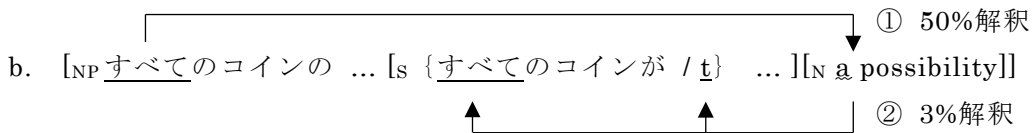
作用域（scope）

- (5) a. すべてのコインが表になる可能性は 50%だ。 ×
- b. すべてのコインが表になる可能性はおよそ 3%だ。 ○
- c. すべてのコインの表になる可能性は 50%だ。 ○
- d. すべてのコインの表になる可能性はおよそ 3%だ。 ○

（越智 2016: 156, 一部改変）

■越智正男(2016)「名詞修飾節における格の交替現象」村杉恵子（他編）『日本語文法ハンドブック』開拓社。

- (6) a. [NP ノ主語 ... [s {ガ主語 / t} ...][N 可能性]]
 → t = ノ主語の痕跡 (trace)



- (7) a. すべてのコインが、表になる可能性は 50%です。（コインには表と裏しかないので当然のことです。） → 三原：○
- b. すべてのコインの、表になる可能性は 50%です。（コインには表と裏しかないので当然のことです。） → 三原：○
- (8) a. [α {ガ主語 / ノ主語}, [s pro ... (ポーズありの場合) ※ α = FocusP
 上の位置 = 提示句]
- b. [s {ガ主語 / ノ主語} ... (ポーズなしの場合)
 下の位置]

総記のノ

- (9) 父親の、大音楽家であった物理学者
 （新国（他）2017: 399 脚注 7, ポーズは三原が入れた）
 → 祖父や母親ではなく、父親が大音楽家だった物理学者

■新国佳祐・和田裕一・小川芳樹(2017)「容認性の世代間差が示す言語変化の様相：主格属格交替の場合」『認知科学』24(3).

- (10) a. 今年の盆踊りの開催される可能性が危ぶまれます。（屋内カラオケ大会もちょっとヤバイです。） → 中立叙述
- b. 今年の盆踊りの、開催される可能性が危ぶまれます。（#屋内カラオケ大会もちょっとヤバイです。） → 総記

ガ・ノ可変は「交替」現象か？

3. 後置文

■『日本語構文大全 III：談話の地平へ』

「語順を変更する規則には必ず談話法上の理由がある」

後置文 (postposing construction)

- (1) a. 今朝、来たんだよ、博人が。(項)
- b. 本当に成功したんです、この方法で。(付加詞)
- c. 突然、大男が現れたんです、2メートルくらいの。(名詞修飾語)
- d. 山田は馬鹿だよ、あいつは本当に。(元に戻せない後置要素)
- e. 彼は感じた、殺意というものは朝の海風のように胸を吹き抜けると。(従属節)

後置要素

- (2) a. 先行文脈や発話の状況から容易に理解されるもの (久野 1978)
- b. 容易に理解されないが、最も重要度の高い情報として解釈されないもの (高見 1995)
- (3) 太郎は花子に買ってやったよ、10カラットのダイヤの指輪を。(高見 1995: 232)

■久野暉(1978)『談話の文法』大修館書店。

■高見健一(1995)『機能的構文論による日英語比較』くろしお出版。

■藤井洋子(1991)「日本語における語順の逆転について：会話の中の情報の流れを中心に」『言語研究』第99号。

- (4) a. 付加文：重要度の低い要素を後置するタイプ (久野 1978 の(2a))
- b. 有標文：後置要素に先行する部分の方がより重要と判断し、その部分を先に言うことにより、結果として後置文が生じるタイプ (高見 1995 の(2b))
- c. **修正文**：情動的に最も重要な要素が後置されるタイプ
- (5) a. 付加文 24.84%
- b. 有標文 36.65%
- c. **修正文** 38.51%

■『老化で遊ぼう』

東海林さだお (東)・赤瀬川源平 (赤) // 阿川佐和子 (阿：(6)(7))・藤森輝信 (藤：(8))

(6) 談話主題 (discourse topic) [付加文]

(阿) 東海林さんはどうなんですか。ゴールは見えてる？

(東) 死のゴールより、むしろ仕事のゴールの方が大きく見えてるね。

(赤) それ、東海林さんは盛んに言うんですよ、仕事が来なくなることが不安だって。

(7) 弱焦点 (weak focus) [有標文]

(阿) だって、あるパーティに、女優の川島なおみさんが人魚のようなイブニングドレスをお召しになっていらしたことがあるんです、もうピチピチにボディにはりついて、お尻の形が完全にわかって、裾がちょっと広がっているような。

(8) 強焦点 (strong focus) [修正文]

(藤) ニワトリは死んでしまうと血が抜けないから、ひねるのはよくないってさ、逆さに吊るして首を切って血を抜いた。

(東) 僕らは、先にひねってから、血を抜いて、熱湯につけて毛を抜く。

(藤) あれはなかなか神秘的ですよ。ニワトリにお湯をかけると毛がズルッと取れる、歩いているニワトリでも。

(赤) 歩いてるニワトリに熱湯かけたわけね。

後置要素の派生方法 (生成文法での分析): ①移動分析, ②基底生成分析

(「e」=空範疇 (empty category))

(9) 談話主題

君といつか行った居酒屋, 魚がおいしかったよね。それで, もう一度行こう思って, [駅から e 行く] 道を思い出そうとしたんだけどね, あの居酒屋へ。

(10) 複合名詞句 (complex NP) → 島 (island)

[NP[s ... X ...]NP] → *[NP[s ... t ...]NP], X

(11) 弱焦点

で, 君は [e 金沢に行く] 計画を立てたんですか, 北陸新幹線で。

(12) 強焦点

*彼は, 前から食べるものには気を遣っていましたが, 先日, [e 気をつけるようになった] 理由を話してくれました, 食べる時間にも。

(13) a. 談話主題 = 基底生成: [s ... pro ...], α ※「 α 」=後置要素

b. 弱焦点 = 基底生成: [s ... pro ...], α

c. 強焦点 = 移動生成: [s ... t ...], α

残留代名詞 (resumptive pronoun)

(14) a. 談話主題

[田中さんがあれを買った]店, 覚えてる?, ウサギの木彫りが付いたストラップ。

b. 弱焦点

[あの人がこんなことで借金を重ねる]生活, もうイヤなんです, 競馬, 競輪, ボート。

4. おわりに

生成文法の企て (Generative Enterprise)

内在言語 (I-language) / 外在言語 (E-language)

→ “language in disguise” (仮装の言語)

統語派生: 調音—知覚システム / 概念—意図システム

談話: 「2つ以上の文からなる文連鎖」